



主体的で対話的な深い学び

校長 倉岡 ナオミ

砂埃や熱中症の心配も少ない、恵まれた曇り空のもと、無事に運動会が終了致しました。地域の皆様には、練習の時からいろいろと御迷惑をおかけいたしました。御理解、御協力をいただき感謝しております。PTA、保護者の皆様にも子供たちのために見回りや競技への参加、片付け等の御協力をいただき、素晴らしい1日にすることができましたこと、心より御礼申し上げます。この行事を通して、子供たちは、協力することや努力することの大切さ、みんなで一つのことを作り上げる素晴らしさ、自分の役割をやり遂げた達成感等、多くのことを得たと思います。多少、練習等の疲れもあったでしょうか。これからは、少し、ゆったりと落ち着いて学習にも取り組めるかと思えます。

さて、5月には学校説明会を開き、今年度の学校運営についてお話をさせていただきました。短い時間でしたが、概要については御理解いただけたことと思えます。また、いろいろな場でお伝えしたいと思えます。学校・家庭・地域が同じ方向で子供たちのために協力していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

今の社会の変化はめまぐるしく、ここ10年から20年で今ある仕事の50%ぐらいは機械がやれるようになり、65%ぐらいはなくなるのではないかとさえ言われています。そう考えると、この子供たちが大人になる頃は、今では想像できないような世の中になり、そうした変化に、柔軟に対応できる考え方や生き方が必要になってきます。それを、今から築いていかななくてはなりません。今、よく耳にする「アクティブラーニング」は、主体的で、対話的な深い学びということであり、いろいろな人やものとの関わりの中で、自分の考えを広げ深める対話的な学びや子供たちが見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びが重要です。言われたことを、ただ受け身的にやるだけではなく、自分の考えをしっかりとった主体的な学び、そして、他者との関わりをうまく作っていくこと、まさに、笹小で今年度も取り組んでいく、特別活動やニコニコ学年活動がこうした学びの場として大きな役割を果たしていくものと考えています。御家庭にあっても、子供たちが何か困ったことにぶつかったときに、すぐに助けて、問題を解決してあげるのではなく、子供自らが、どうしていったら良いのか、そのために何が必要であるのかを、じっくり考えて、自分で答えを見つけられるような、声かけや支援をしていただけたらと思います。私たち大人は、ずっと、いつまでも子供たちを助けてあげられるわけではありません。ですから、子供たちが自らの力で、自分の道を切り拓いていけるような力を育てたり、考え方を教えたりすることが重要なのではないのでしょうか。

子供たちの輝ける未来のために。



笹野台小学校合い言葉 **元気いっぱい やさしいいっぱい 笑顔いっぱい 心かがやく笹小キッズ**

笹野台小Web <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sasanodai/> 検索 **横浜市立笹野台小学校**